

わが校の紹介

「森の環境教育」により

郷土を誇り愛する生徒の育成

養父市立大屋中学校

校長 羽瀨健三

四季を通じていろいろな美しい表情を見せる清流大屋川、日本の滝百選「天滝」、特別天然記念物「樽見の大桜」、自生地日本南西限の「加保坂のミズバシヨウ」など、大屋の人々は今まで自然の恵を受けながら、豊かな自然とともに生きてきました。

しかし近年、豊かであった自然に異変が見られるようになりました。里まで出てくる山の動物たち、もう見られなくなった多くの種類の川魚たち、少しの雨でも一気に流れ出る濁流、ふだんの水量がぐんと少なくなつた大屋川、いたる所で発生する山崩れなど気になることがたくさんあります。

本校では、総合的な学習の時間を活用して、1年生を中心に環境についての学習を進めてきましたが、平成17・18年度の2年間、県教育委員会より『森の環境教育実践推進校』の指定を受けて取り組んでいます。森に親しむ体験的な活動や学習を通して、森林の果たす役割

や人との関わり、森林の環境についての理解を深め、環境保全に積極的に取り組む実践的な態度を育成します。主な体験的学習として、次のような活動に取り組んでいます。

- ① 杉林の間伐体験学習
- ② 木材の活用(クラフト)体験学習
- ③ 炭焼き体験学習
- ④ キノコ取り体験学習
- ⑤ 水ノ山山系に生息する「イヌワシ」の生態についての学習
- ⑥ 特別天然記念物「樽見の大桜」についての学習
- ⑦ 加保坂「ミズバシヨウ」の生態と保存についての学習

これらの環境学習を通して、



地域の人々や自然・歴史・文化との関わりをさらに深め、郷土を愛する心を養い、郷土に誇りを持ち、郷土に対する肯定的な見方を育てたいと思います。

まちの文化財 ⑰

八鹿駅の跨線橋

明治・大正・昭和の日本を作ってきた建造物や土木遺産などを「近代化遺産」と呼んでいます。八鹿駅に線路をまたぐ鉄橋があります。これを跨線橋といいます。この跨線橋が大切な近代化遺産なのです。

明治38年(1905年)、今から百年前に日露戦争がありました。日本はロシアに勝利し、中国や韓

国での権益確保を強化します。こつした中で、日本海地域の交通網の整備が急務となりました。そして明治39年、福知山駅から島根県の出雲今市駅(現・出雲市駅)を鉄道でつなぐ山陰線が計画されました。



八鹿駅の改札口を入って上りのホームに向かう跨線橋の正面に2本の柱があり、その柱の下側に文字

が刻まれています。ペンキが塗られて分かりにくいのですが、「明治十」「鐵道新橋」の文字が読めます。

これは、明治40年に通信省帝国鉄道庁新橋工場で製作したという意味です。

1日に開通しました。八鹿駅では、戦時の鉄材供出で跨線橋がありませんでした。このため昭和29年、養父郡14町村長が国鉄に陳情し、福知山駅に新しい鉄橋が完成するのを待って譲り受けました。昭和30年1月1日に八鹿駅で渡り初めがされました。現役で活躍する跨線橋では、日本最古の一つでしょう。山陰線のシンボルとして作られた跨線橋が、今日も養父市を訪れる人や旅立つ人を静かに見守っています。

(社会教育課)

窓 読書の環境を

大人と子どもが一緒になって楽しむ、家庭教育として子どもとの関わりを大切にしている人は、ごく自然に絵本に接しています。

絵本には、まるごと一つの「世界」が用意され、見るもの読むものとの交流が意図されています。絵本は、子どもが成長していく過程で、社会が共有している文化を少しずつ身につけ、言葉のおもしろさや、イメージの豊かさ、物語の楽しさを体験する格好のものなのです。

養父市では、全ての学校で「読書タイム」が実施されています。これは、生活の中に読書習慣が身に付くことをねらいとしています。子どもたちの自ら学ぶ力や幅広い知識・考え方・感性は読書によるところが大きいと思われま

この秋、子どもたちがたくさんの本と出会い、そして家庭でその内容について話をする事ができれば、子どもたちはより本好きになることでしょう。読書のための環境は、大人が作ってやらなければなりません。家庭でも「読書タイム」を作ってはいかがでしょうか。

(学校教育課)